

研究機関：広島大学

研究課題名 肺動脈カテーテルで圧測定を行う際に最適なトランスデューサーの設置位置

研究責任者名 広島大学大学院医系科学研究科麻酔蘇生学 職名 教授 氏名 堤 保夫

研究期間 2019年11月25日(倫理委員会承認後)～2025年4月1日

対象者

2010年4月から2019年10月の間に、広島大学病院手術部で手術を受けた患者さんのうち、術前に頭部および胸部CT検査を撮影した患者さんを対象とします。

意義・目的

中心静脈圧や肺動脈圧、左房圧の評価は、肺動脈カテーテルの先端の圧を測定して行っている。圧を測定部位(カテーテルの先端)と圧測定のトランスデューサーは同じ高さにあわせる必要がある。これらの圧は測定域が狭いため、トランスデューサーの位置は正確に設置する必要がある。今回の研究は、既存のCT画像のデータから、上下大動脈、右房左房、上下大静脈の位置を調べ、さらにそれらが体表のどのランドマークと位置を合わせるのが適切かを検討することを目的とした研究である。

方法

本研究は、すでに撮影されているCT画像および、麻酔記録情報を調査して行います。

麻酔記録から使用する内容は、性別、生年月、身長/体重、病名/術式、既往歴、術前服薬内容、麻酔科術前診察所見、血圧(動脈・肺動脈・中心静脈、肺動脈楔入圧)、トランスデューサーの設置位置、またCT画像より、胸郭、上下大静脈、肺動脈、右心房左心房、気管・気管支など縦隔臓器の位置情報(背面および中心線からの距離)、外耳孔、前腋窩線、胸骨柄、鎖骨などランドマークとなりうる部位の位置情報です。

個人を特定可能な情報は解析に使用しません。

共同研究機関

なし

試料・情報の管理責任者

広島大学大学院 医系科学研究科 麻酔蘇生学 教授 堤 保夫

個人情報の保護について